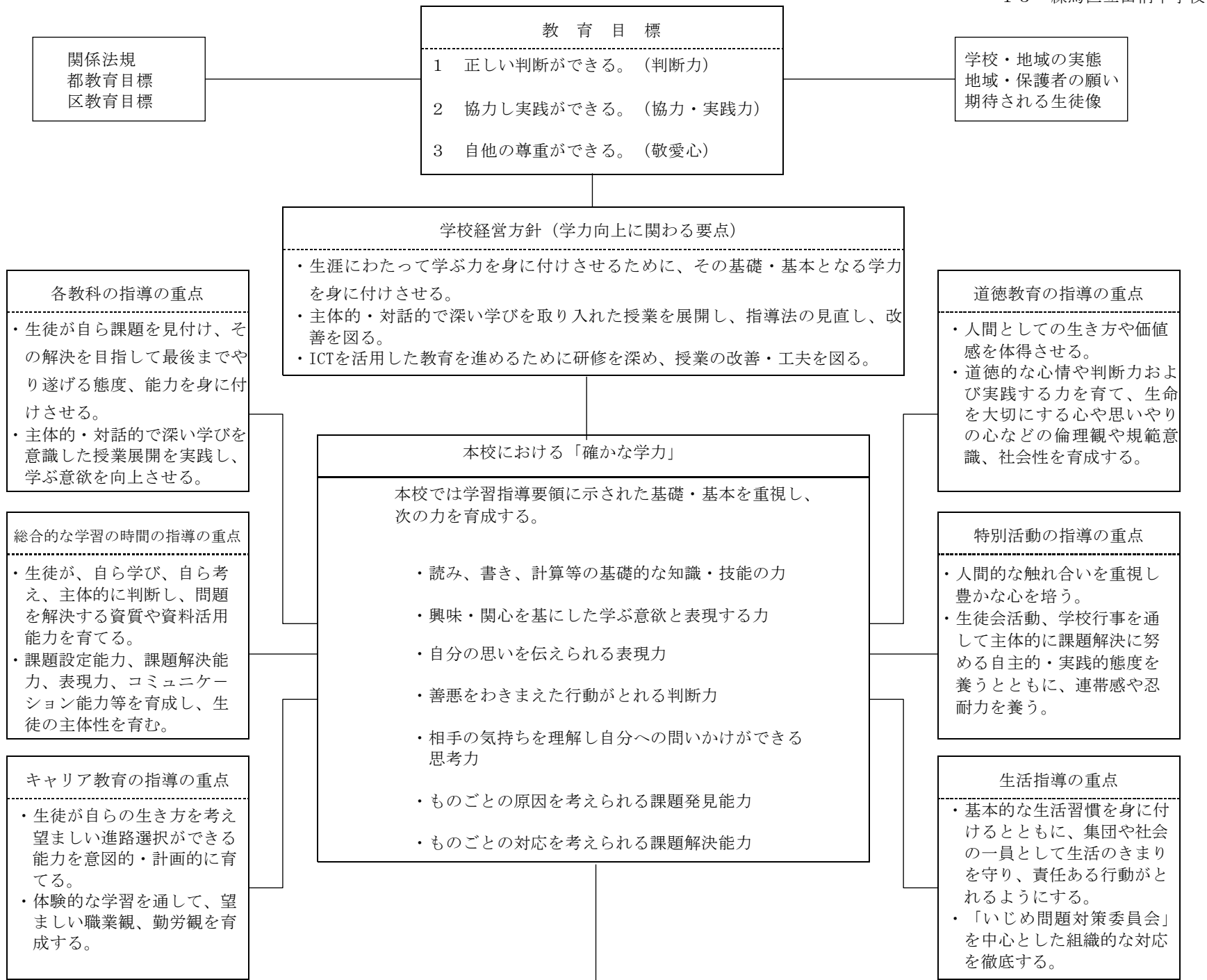


令和6年度 学力向上を図るための全体計画



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> 1人一台端末を活用し、個に応じた授業展開を実践する。 eライブラリー等を活用した演習を通し、繰り返し基礎学力の定着を図る。 実験・実習を多く取り入れ、体験的な指導の充実を図る。 生徒の主体的、対話的で深い学びが行われるよう指導を工夫する。 習熟度別少人数授業を中心に、補充的な学習や発展的な学習を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 田柄タイムを設定し、読書や自主学習を実施し、生徒の思考力や落ち着いた学習態度を育成する。 総合的な学習の時間では外部人材を積極的に活用した教育活動を実施する。 学校図書館の活用を促進し、読書に対する生徒の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の理念実現に向けて、指導力向上を図り、適切な評価を行うための研修を実施する。 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業研修を行う。 ICTの活用を活かした授業研修を推進する。 スクールカウンセラーの知識や技能を積極的に学び、教員の指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科部会を開き、教科の評価規準等について共通理解を図り、その客観性を高める。 評価規準を明確にし、基礎的な技能を習得させる。 授業における生徒の学習状況を把握するために振り返りを丁寧に行う。 英語・数学・漢字検定等を校内で実施し、生徒の学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭が連携して生徒の指導にあたるよう、保護者が子供の学習場面に立ち会う機会を設定する。 地域への職場体験学習や地区祭等への参加を通じて、地域と連携した教育の充実を図る。 学習活動の基盤としての生活習慣や健康づくりに家庭の協力を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「目指す15歳の姿」の実現に向けて、校区別協議会で協議を行い、9年間を見通した学習活動の充実を図る。 様々な分科会を設置し、広い視点から、課題の探究を図る。 相互の授業見学を通し、課題改善に向けた実践的な研修を行う。

授業改善策の検証方法
<ul style="list-style-type: none"> 校内研修で授業を参観し合うことで、授業改善策の成果を確認するとともに、相互に学び合う場を設定する。 管理職が授業見学を行い、授業改善策の成果を各教員にフィードバックする。 学期ごとに教科部会を実施し、内容別・観点別の分析を行い、授業改善策の成果と課題を検証し、次年度の計画に取り入れる。